



EVERYTHING **DiSC**  
A Wiley Brand

# Everything DiSCの 理論とリサーチ

WILEY

Everything DiSC®は、DiSC®モデルに基づいて個人の好みや傾向を測定し、組織における人の成長を支援する学習メソッドです。

では、DiSCモデルとは何でしょう？

D, i, S, Cの4つの基本的な行動スタイルで説明されたシンプルでパワフルなモデルであり、様々な目的に適用されるEverything DiSCシリーズの基盤となっています。

**D: 主導 (Dominance)**

**i: 感化 (Influence)**

**S: 安定 (Steadiness)**

**C: 慎重 (Conscientiousness)**

誰もが4つのスタイルの融合であり、通常1つ、2つ、なかには3つのスタイルが目立つこともあります。多くの性格検査とは異なり、アセスメント結果やDiSCスタイルに「正解」はありません。人はそれぞれ、異なるスタイルと優先事項を持つユニークなプロフィールがあり、ほかの人のスタイルとの優劣もありません。このようなスタイルの違いこそ、とても価値があると私たちは信じています。これらの違いを評価し、その価値を活かせば、職場でのコミュニケーションが改善され、より健全な組織づくりが可能になります。

シンプルそうに見えるでしょう？

そうですね。でもそんなに単純ではないのです。なぜなら…

40年以上前からDiSCの調査・分析が重ねられてきました。実際、我々のDiSC®Classic冊子教材は、**史上初のDiSCアセスメント**です。(DiSCの小文字の「i」を使用することで、常にWiley社のDiSCであると見分けられることはよく知られています。)

テクノロジーの進化に伴い、DiSCも進化しています。DiSCのオンラインアセスメントでは、最先端の評価方法(適応型テスト)と洗練されたアルゴリズムを使用して、回答者の反応を迅速に分析し、可能な限り正確なフィードバックを提供します。プロフィールはその測定結果を、応用しやすくかつ覚えやすい記憶に残るパーソナライズされたストーリーに変換します。

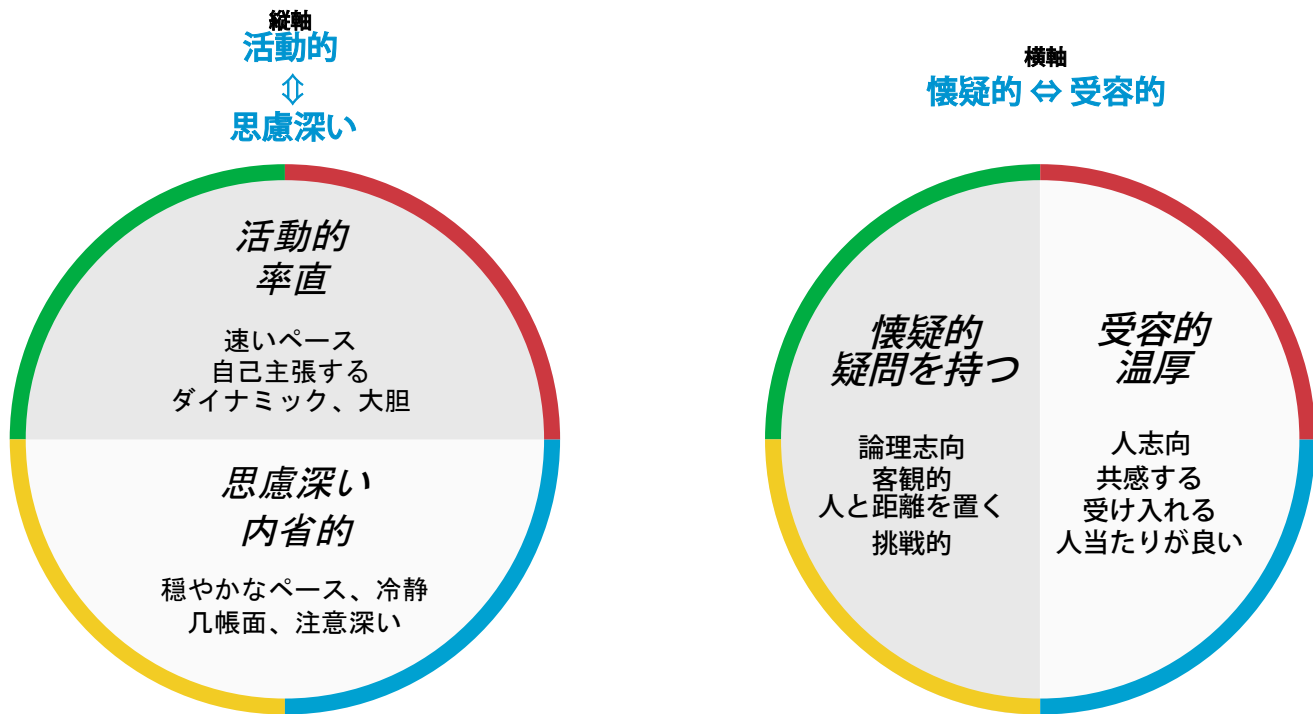
Everything DiSCのパーソナリティアセスメントは、リーダー、マネジャー、従業員、営業職向けに、それぞれ目的別にパーソナライズされたフィードバックが提示されます。



# DISC® 理論

## 人間の行動の2次元

DISCは4つのスタイルで記述されるが、モデルの核心は2次元である。これらの2つの次元は、人間の本質の基本的な側面を反映しており、独立した構成要素として見ることができる。



### Everything DiSC 縦軸

縦の次元は、「活動的」～「思慮深い」の連続軸で表現される活動レベルを表している。円の頂点に位置するDISCスタイルの人は、ペースが速めで、自己主張が強く、ダイナミック且つ大胆と記述されることが多い。伝統的な説明によると、このスタイルの人は、自らを環境よりも強い存在と捉えるため、自分を取り巻く環境を変えるために努力する傾向がある。反対に、円の底辺部に位置するスタイルの人は、より穏やかなペースで行動し、冷静、且つ几帳面で、注意深い。このスタイルの人は、環境よりも自身の力が弱いと捉えるため、現状に適応しようとする傾向がある。

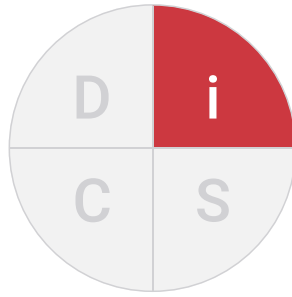
### Everything DiSC 横軸

横の次元は、「懐疑的」～「受容的」の連続軸で表現される。円の左側に位置するDISCスタイルの人は、懐疑的な性質を持っており、多くの場合、より論理的且つ客観的で物事に挑戦的とされる。伝統的な説明によると、これらの特性を持つ人たちは、己を取り巻く環境を対立するものとみなし、これらの外部要因を徹底的に調べ尽くさないと、人もアイデアもなかなか信用しようとはしない。一方、円の右側に位置するスタイルの人は、より受容的であり、多くの場合人間関係に重きを置き、共感的で、同調性があるとみなされる。このスタイルの人は、己を取り巻く環境が自身の関心と合っているとみなし、周りの人やアイデアを好意的に解釈して信頼する傾向がある。

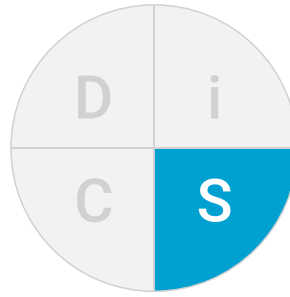
# 4つのDiSC®象限



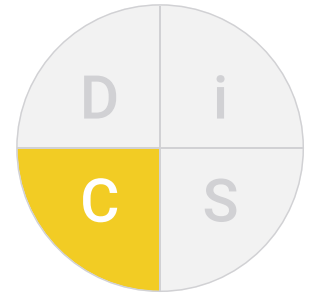
**Dスタイル(主導)**は、活動的で懐疑的である。直接的かつ強引であり、率直に意見を述べる。



**iスタイル(感化)**は、活動的で受容的である。社交的かつ熱意があり、快活である。



**Sスタイル(安定)**は、思慮深く、受容的である。穏やかで順応的であり、他人の間違いに対して寛容である。



**Cスタイル(慎重)**は、思慮深く、懐疑的である。分析的で控えめであり、正確を期す。

DiSCの領域は4つの顕著なスタイルを表しているものの、DiSCの円形をより連続的なものとみなすほうが有益と思われる。各4つのDiSCスタイルが、隣接するスタイルに溶け込む様は、色環上の各色が融合するのと同様だと考えれば良い。赤と黄色はそれぞれ異なる色だが、融合するとオレンジという新たな色を生み出す。これと同じように、Dとiスタイルもそれぞれ異なるが、円上のスタイル間のスペースも、特徴的な性質を表している。例えば、Diスタイルの人は、Dスタイルの人よりも、自分のことを大胆で説得力があると述べる傾向にある。iDスタイルの人は、iスタイルの人よりも自分のことをカリスマ性があり、ダイナミックと述べる傾向がある。どちらの場合も、これら2つのスタイル(DiとiD)は、Dスタイルとiスタイルと共有する部分があると同時に、それぞれ単体のスタイルとは異なった特徴を持つ。

DiSCについて論じる際、単に「C」の人という呼び方をせずに、「Cスタイルを持つ人」という呼び方をする。この微妙な言語上の差は、なるべく人を型にはめて区別することのないようにするためのものである。Cスタイルを持つ人は、主にCの特徴を示すものの、他の4つのスタイルの要素も持ち合わせている。例えば、Sの特質とされている、同僚が不満を話すのを、辛抱強く聞くことができるかもしれない。

## 「ストレッチする」という考え方

円環DiSCの一連の特質は、「ストレッチ」という考え方について理解するのにも役立つ。自分のスタイルを居心地の良いホームベース、または「心地の良い領域」と考えるとよい。Cスタイルを持つ人は、正確さが要求される分析的なプロジェクトを単独で行うことを非常に好む。しかし、時には業界のイベントなどで見ず知らずの人と交流することが要求されることがある。このような場合、この人は、円上でiスタイルに近寄ることが求められる。円の中心近くにドットのあるCスタイルを持つ人にとっては、このような交流は好ましいことではないが、許容範囲内かもしれない。一方、円の縁側にドットのあるCスタイルの人にとっては、このような交流が非常にストレスとなる。後者の場合、許容範囲をはるかに超えるため、かなりの努力が必要となる。一般に、中心にドットのある人のほうが、状況によってはそれほど苦労せずに異なるDiSCスタイルに適応できる。円の縁のほうにドットがある人が別のスタイルに適応するためには、よりストレッチする必要がある(そのため、ストレスを受ける)。他方で、このような人たちのDiSCスタイルはより顕著であるため、多くの場合、そのスタイルの特性の長所が非常に強く表われる。



# DiSC® リサーチ

心理学的ツールは、触れたり見たりすることができない抽象的な資質を測るのに使用される。例として、知性、外向性、誠実さなどの特徴が挙げられる。それでは、研究者たちはどのようにしてこれらのツールを評価するのか？このようなツールが、一見もっともらしいが実はいい加減なもの、ではなく、これらの特徴について正確な情報を提供していることが、どのようにしたら分かるのか？

端的に言うと、ツールが本当に有益で正確であれば、科学界で定められた様々な基準を満たすはずである。研究者は、妥当性検証(validation)というプロセスにおいて、様々な基準に対するテストを行い、心理学的ツールのクオリティを評価する。このページを読めば、これらの様々な基準を理解し、Everything DiSCアセスメントが測定中にどのように機能するかが分かる。

詳細については、「Everything DiSC MANUAL」(Wiley社：英語)を参照。

## 妥当性検証によって問われる2つの基本的質問：

### そのツールはどれくらい信頼できるか？

研究者が問うのは、そのツールが一貫性と信頼性を持って測定することができるか、である。結果が不規則に変動するようであれば、信頼性が低いと判断される。

### そのツールはどれくらい妥当か？

研究者が問うのは、そのツールが正確に測定しているか、である。ツールが測定しようとしているものを測定していれば、その妥当性が確認できる。

心理測定ツールの信頼性や妥当性に完璧なものはないということを理解しておくべきである。どんな心理学的ツールも、様々なエラーの源に影響されるからである。そのため、信頼性や妥当性というのは、連続的尺度上の程度の問題として考慮され、二者択一的に、信頼できる/信頼できない、妥当/妥当でない、と言い切れるものではない。よって、「このツールは信頼できるか？」と聞くよりも、「このツールの信頼性をどれだけ裏付けられるか？」と聞くほうが適切である。

## 尺度

回答者が一連の記述について、どれくらい自分に当てはまるかを答えることで、DiSCスタイルが測定される。これらの回答によって、各人のスコアが8つの尺度において計算される。以下が、8つの尺度である。

- **D**は、率直で主導的な性質を測定する。使用される形容詞は、「積極的」「意志が強い」「強硬/強引」など。
- **Di**は、活発でペースの速い性質を測定する。使用される形容詞は、「ダイナミック」「冒険的」「大胆」など。
- **i**は、対話を好み、影響力のある性質を測定する。使用される形容詞は、「社交的」「陽気・快活」「話し好き」など。
- **iS**は、人に同調しやすく、温和な性質を測定する。使用される形容詞は、「信じやすい」「明るい」「面倒見が良い」など。
- **S**は、協調的で着実な性質を測定する。使用される形容詞は、「思いやりがある」「穏やか」「優しい」など。
- **SC**は、ペースが穏やかで、慎重な性質を測定する。使用される形容詞は、「注意深い」「物腰柔らか」「自制心がある」など。
- **C**は、ひとりを好み、律儀な性質を測定する。使用される形容詞は、「分析的」「控えめ」「感情に流されない」など。
- **CD**は、探求的で懐疑的な性質を測定する。使用される形容詞は、「冷笑的」「意志が固い」「批判的」など。

これらの尺度は、プロフィールには表示されないが、回答者がどのスタイルかを判定するのに使われる。

## 信頼性(RELIABILITY)

研究者は、ツールの信頼性を測るために、その「安定性」と「内的整合性」に目を向ける。「安定性」に関しては分かりやすい。この場合、研究者は回答者に同じアセスメントを二度ずつ受けてもらい、その結果を相関させる。これを、「テスト／再テスト(test-retest)信頼性」と呼ぶ。

TABLE 1. 尺度の信頼性

	Test-Retest	Alpha
	(2週間)	
Di	0.86	0.90
i	0.87	0.90
iS	0.85	0.86
S	0.86	0.87
SC	0.88	0.84
C	0.85	0.79
CD	0.85	0.87
D	0.86	0.88
N	599	752

「内的整合性」は、「安定性」よりわかりやすいものではない。ここでは、特定の尺度に関連する全設問(アイテム)が同じような特質を測定すると想定される。すなわち、これら全てのアイテムは、理論上相関しているはずである。「内的整合性」は、アルファ(Alpha)という測定基準を用いて表される。

テスト／再テストとアルファの両方とも、同様の基準で評価することができる。最大値は1.0で、数値が高いほど信頼度が高くなる。必ずしもというわけではないが、ほとんどの研究者が、数値を解釈するうえで以下のガイドラインを使用している。0.9は優秀、0.8は良い、0.7は許容範囲内、0.7未満は問題あり、とされる。8つのDiSC尺度についての信頼性評価値は、Table1に示される。Table1が示すとおり、全値は0.70をはるかに上回り、1つを除いては、全て0.80を上回った。これで、DiSCの測定は安定していて、内的整合性があることが分かる。

## 妥当性(VALIDITY)

アセスメントの妥当性を試す方法は色々ある。ここでは2つの例を挙げるに留めるが、他の方法については、Everything DiSC Research Report(英語)に記載されている。

DiSCモデルは、隣接した尺度同士(Diとiなど)は、多少の相関関係があると提案している。つまり、これらの相関関係は、各尺度のアルファ信頼性係数よりかなり小さいはずである。例えば、Diとi尺度間の相関関係(0.50)は、Diとi尺度のアルファ信頼度(どちらも0.90)よりもかなり低いはずである。一方、理論的に相反する尺度(iとCなど)は、強い負の相関関係を示すはずである。Table2は、Everything DiSCアセスメントを完了した752人の回答者のサンプルから得たデータを示している。8つの全尺度間の相関関係は、当モデルの強力な裏付けを示している。つまり、隣接する尺度間の多少の正の相関関係と、相反する尺度間の強い負の相関関係が見られる。



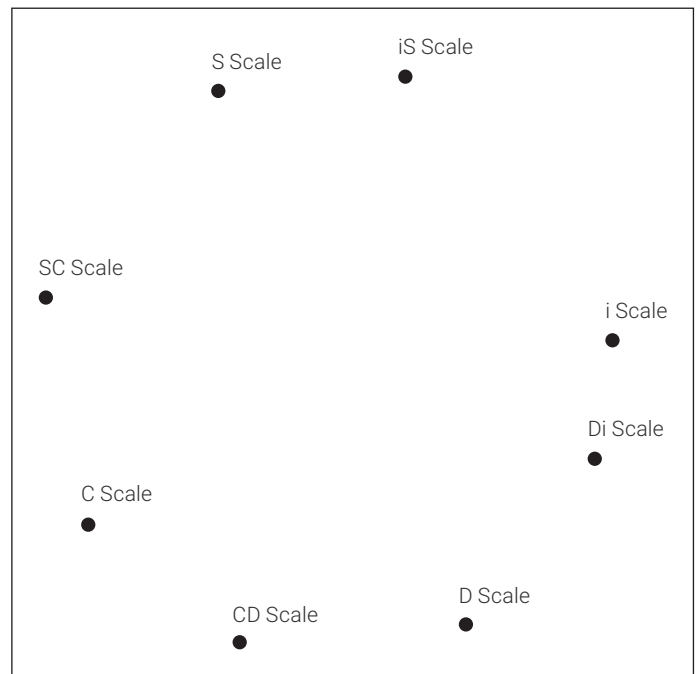
TABLE 2. 尺度の相互関連性検証

	Di	i	iS	S	SC	C	CD	D
Di	0.90							
i	0.50	0.90						
iS	0.04	0.47	0.86					
S	-0.31	0.03	0.57	0.87				
SC	-0.73	-0.56	-0.13	0.34	0.84			
C	-0.43	-0.70	-0.49	-0.18	0.45	0.79		
CD	-0.14	-0.37	-0.68	-0.66	-0.08	0.26	0.87	
D	0.46	0.14	-0.37	-0.69	-0.62	-0.19	0.42	0.88

クロンバックのアルファ信頼性は、対角線に沿って太字で示されており、尺度間の相関係数は、表内に示されている。相関係数は、-1から+1の範囲で示される。+1の相関係数は、2つの変数は完全に正に相関し、ひとつの変数が増加すると、もうひとつの変数もそれに比例して増加することを示している。-1の相関性は、2つの変数は完全に負に相関し、ひとつの変数が増加すると、もうひとつの変数はそれに比例して減少することを示している。0の相関性は、2つの変数には全く関係しない。

「多次元スケーリング」と呼ばれる統計的手法もDiSCモデルを円環グラフで表現することを証明している。この手法には2つの利点がある。第一に、8つの尺度間の関係性を視覚的に確認することができる。第二に、この手法により、研究者は同時にすべての尺度を表示できる。図表1では、尺度が近いほど正の関係が強く、離れている方が異質性が高いということが分かる。DiSC円環モデルは、8つの尺度が等間隔で円形に配置されることを予測している。図表1から見受けられるように、各尺度はDiSCモデルで予想されるとおりに配置されている(原型MDSの回転は右のように表示され、この回転は任意である)。8つの尺度は(モデルで予測されるように)完全な等距離円を描いてはいないが、このような理論上の理想を実際のデータから得ることは、ほぼ不可能に等しい。しかし、尺度間の実距離はほぼ均等であり、当モデルとアセスメントの強力な裏付けとなっている。

図表 1



詳細については、EverythingDiSC.comをご覧ください。

日本語版のリサーチレポートについては、DiSC認定資格者専用サイトに掲載されています。